朝日新聞　平成25年12月19日

吉岡ロゴテック

運つかめ 七転び八起き箸

どんなに転がしても「ダルマ」「不死鳥」上に

特殊印刷業の吉岡ロゴテック（福井市）が、「七転び八起き」の縁起箸を開発した。眼鏡加工と越前漆器の技術を融合させたアイデア商品で、11月の全国推奨観光土産品審査会で日本商工会議所会頭賞に選ばれた。

商品名は「起き上がり個箸（こばし）」。どんなに転がしても、縁起物の「ダルマ」や福井の復興の象徴「不死鳥」の絵柄の面が上を向く。表面は越前漆器の伝統工芸士による手塗りだ。

「起き上がり個箸」を手にする吉岡ロゴテックの吉岡敦之社長＝福井市

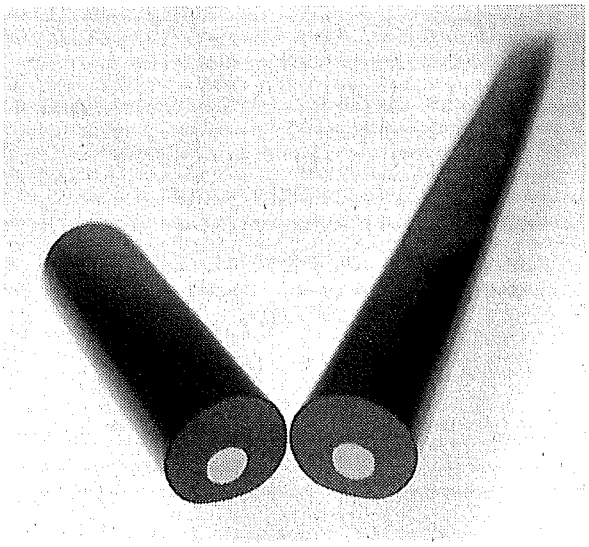
福井の会社 眼鏡＋漆器の技コラボ

同社は眼鏡フレームにブランド名などを刻印する特殊印刷を手がける一方、眼鏡の加工技術を生かした商品開発にも力を注ぐ。どんな置き方をしても先端の口に入れる部分が浮いた状態になる乳児用スプーン、クリップ機能付きマドラーなどを売り出してきた。

縁起箸は、鉄の芯がおもりとなって天面が上向くよう、眼鏡フレーム加工業者に箸の上端部に鉄の芯を入れてもらい、箸の形状もかまぼこ状に加工して安定性を高めた。吉岡敦之社長は「福井の眼鏡と漆器の技術があってこそできた商品。本物志向のお土産として売り出したい」と話した。

2膳1組で税込み1万4700円。展示会を通じて販路を開拓する。

（堀田浩一）



「起き上がり個箸」の断面。箸は内部に鉄芯が挿入され、形状もかまぼこ状に成形されている＝吉岡ロゴテック提供